

天草下島での出会いで、興味深く、かつ衝撃的だった二人がいる。一人目は、たった一人で天草更紗の伝承と創作に挑む、染織家の中村いずずさん。中村さんは現在「野のや」という工房で、昭和半ばに途絶えてしまったという歴史ある天草更紗を、図柄から型に起こして染めるほか、天草らしい独自のモチーフを描き起こし、新たな平成の天草更紗をも創作する。

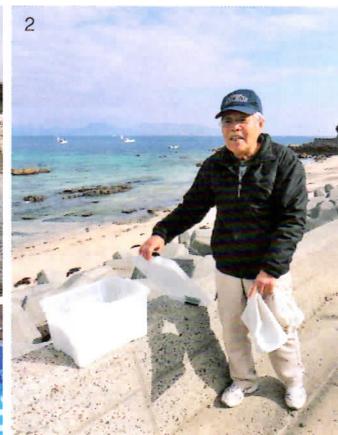
「数十年前から、じわじわ復興の要望が高まって、私が復刻を始めたのが、10年ほど前から。伝統を大切にしながら、新たな挑戦もしていきたいですね」(中村さん)

繊細な絵柄から、芯の強い熱いメッセージが聴こえてくるようだ。そしてもう一人の熱き人が、海水を、太陽と風の力で濃縮させ、塩作りをする木口孝さんだ。

木口さんの使う海水は、海藻がよく育ち、イルカが多く生息する海の、ミネラルを豊富に含むもののみ。それをポンプで汲み上げ、長時間かけて太陽と風の力だけで濃度の高い塩水を作る。これをハウスの中で、同じく太陽の光のみで、塩を結晶化してゆくのだ。

「完成まで、夏場で2〜3週間、冬場だとひと月近くかかる。でもそうしないと、本当に美味しい塩は、出来ないから」(木口さん)

これは、ただ原始的という一言では、到底済ませられない。ありのままの塩作りに挑む男の、すべてを賭けた涙みを感じさせられた。



1.ポンプで引き上げた海水を、太陽と風の力のみで濃度を高める。2.木口さんの解説は実に興味深い。3.ハウス内で結晶化させている図。この後、ふるいにかけて砂を取り除き、さらにピンセットで粒を選り分ける。4.そうして、まさに「手塩にかけて」育てた「はやさき 天日塩」が完成。旨みが濃厚で、余韻の長い味わい

1.中村さん渾身のタペストリーは、古来から伝わる更紗模様と、オリジナルの模様を組み合わせている。2.天草更紗の図柄。これを基に型を起す



完全天日塩 はやさき 熊本県天草市五和町二江106
☎0969-33-0610 <http://hayasaki-shio.sakura.ne.jp>

天草更紗 染元 野のや 熊本県天草市佐伊津町2212-2
☎0969-23-5484 ☎11:00~18:00 ※要お問い合わせ
Ⓜ不定休 <http://www.sarasa-nonoya.com>